



October 2022 号外

## 全国学力学習状況調査の結果について(算数編)

### 算数において

- 1050×4のような空位のある整数の乗法の計算ができる
- 2つの数の最小公倍数を求めることができる
- 示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる
- 百分率で表された割合を分数で表すことができる
- 分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる
- ▲示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる
- ▲示された場面で数量が変わっても割合は変わらないことを理解している
- ▲問題に合う求め方(加法と乗法の混合した計算)を解釈し、他の場合の求め方と答えを記述できる
- ▲図形を構成する要素に着目して長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している

牛牧小学校の児童の算数は県平均をやや上回り、基礎的・基本的な事柄の定着や活用という点では概ねできていると思われます。しかし国語と同様で、比較的長文の問題に対しての無回答が多いのが気になります。また、判断の理由を記述する部分についての無回答も多いのが気になります。

これまでも算数だけでなくいろいろな教科において、学習課題に対する自分の考え方をノートに記述し、仲間と伝え合う活動を通して、より合理的な見方や考え方を定着させていくような学習活動を続けてきました。その結果が成果となって現れ、「根拠を明確にして自分の考えを文章で書く(伝える)こと」は出来るようになりつつあります。しかし、問題から立式することは出来ても、逆に式が何を表しているのかを考えて言葉で説明することに苦手意識をもっている児童が多いようです。(このような『式を読む』問題には苦手意識をもつ児童が多いのは、牛牧小学校だけの傾向ではありません。多くの学校でも課題となっています。)また、図形領域においては習熟の度合いがやや低いようです。今後も、基礎的・基本的な事柄の定着を図るような習熟の時間の充実と同時に、身に付けた「見方や考え方」を活用して、多様な考えを数学术語を正しく使って粘り強く説明していくような活動に力を入れていきます。